

令和7年度第1回八雲総合病院運営検討会議 会議録（要旨）

開催日時 令和8年2月17日（火）14:00～14:24

開催場所 八雲総合病院講堂

出席者 委員：伊藤委員、芦田委員、小山委員、安田委員、
大野委員、石田委員（院長）
事務局：竹内事務長、長谷川庶務課長、佐々木地域医療連携課長、
佐藤医事課長、高橋庶務課長補佐

傍聴者 無し

会議要旨

1. 開会（事務長）
2. 挨拶（石田院長）
3. 議事「令和6年度決算状況について」
高橋庶務課長補佐説明

委員：

今後の医師確保はどのような見込みなのか。

座長：

町の経済的なバックアップがなくなり、病院自体を支えていけなくなるとなれば、出張医体制の科や収入の少ない科などをおそらく縮小するしかなくなる。都会では、半径10km以内にある病院同士が合併して上手にやっているところもあるが、北海道は特殊な地域であり、特にこの辺だと長万部町・森町・せたな町等の近隣病院へは30kmぐらいあるため、合併は難しい。自分たちの町で賄わなくてはならないとなると、縮小せざるを得ない。

委員：

そうなればこの委員会だけでなく、開設者である町長や町議などで今後の病院の体制を検討していく必要があるのではないか。

座長：

八雲町と熊石町が合併した時に2万2千人位いた人口の1/3が減るなかで収入を増やすのはかなり厳しい状況である。過去に経営コンサルタントから、病院が生き残れるかは町の財政的な余力がどのくらいあるかが大事になってくると言われている。

委員：

病院は非常に重要であることから、議員を含めて町には理解してもらい、今後も援助を続けてほしい。

委員：

一般会計からの繰入金は基準以外でどれくらいもらっているのか。

事務局：

令和6年度については、町から11億円程度の繰入金があり、そのうち基準外繰入は約8,400万円となっている。11億円はすべてが町からの持ち出しのお金ではなく、国からの普通交付税や特別交付税も含まれたものとなっている。

委員：

診療報酬改定があるが、経営の改善に資するところはどのくらいあるのか。

事務局：

具体的な数字はまだわからないが、おそらく赤字を補填するほどではない。

手技料や人件費分が増額されると新聞等で報道されているが、当院の収入がダイレクトに増えるわけではなく、例えば都市部の非常に大きな病院で救急受入れが多いところは増えていくが、それ以外ではさほど増収のインパクトは薄いと考えられる。一方、国からの補助金で、病床削減や人件費・物価上昇に対するものなどがあり、これらの補助金の取り漏らしがないようにやっていきたい。人口減少に比例している入院患者の減少に対して病床削減を一定程度進め、病院のスリム化したのちに人件費の圧縮を検討していく。

4. その他

委員：

病院経営が大変なのは非常に理解できる。コマーシャルを出すわけにもいかない。伊達市から函館市までの間に大きな病院がここしかないため、維持できるよう頑張っていただきたい。

座長：

例えば、お産がかなり少なくなり、小児科の数も少なくなっているが、この地域に病院があるという必要性は、大学側では十分理解してくれている。ただし、最近では医局に入る医師が少なく、初期研修終了後に民間病院へ直接就職してしまい医局員が少なくなっていることにより、内科や外科系では引きあげも多くなってしまおう。

委員：

令和8年度の病院医師の異動予定（採用・退職）はどのようになるのか。

座長：

来年度は大きな動きはなく、現状維持の見込みである。

委員：

この会議の開催時期を、少し早めの7月から8月くらいにしてほしい。

事務局：

開催時期の前倒しを検討していきたい。

委 員：

17年前に移住してきたが、その選択肢の一つに300床以上の町営の病院があることが決め手だった。医師確保は大変だと思うが、医師がいなくなるのはつらい。

はぴあで行われている医療講演会は、直に医師から話が聞けて良い試みだと思う。今後も続けて頑張って行ってほしい。

座 長：

3月にも整形外科医師が医療講演会を行う予定があり、これからもこのような地道な宣伝が実を結ぶのではないかと思っている。

5. 閉会

以上